小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会

現役世代の
ウェルビーイングを高める
まちづくりに向けて

本日のねらい：
若者・子育て世代・働く世代が「小牧で暮らし続けたい」と
感じるための視点を伺う

「まち・ひと・しごと」とは

地方創生の枠組みと、市の計画体系の関係を整理

① 地方創生の「まち・ひと・しごと」　― 国が定めた３つの柱

【まち・ひと・しごと創生法】人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、
各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指す

まち	ひと	しごと
国民一人一人が夢や希望を持ち 潤いのある豊かな生活を 安心して営める地域社会の形成	地域社会を担う個性豊かで 多様な人材の確保	地域における魅力ある 多様な就業の機会の創出

② 市の最上位計画と地方版総合戦略

市：小牧市自治基本条例

小牧市まちづくり推進計画第２次基本計画（R5～R12）
まちづくりの方向性を定める市の最上位計画

国：まち・ひと・しごと創生法

第３期 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略（R7～9）
法に基づく「地方版総合戦略」で、
小牧市まちづくり推進計画第２次基本計画を踏まえたもの

小牧市まちづくり推進計画第３次基本計画（R9～R16）
※総合戦略を位置付け、一体的に策定・推進

小牧市まちづくり推進計画第３次基本計画

令和９年度から令和16年度までの８年計画

現在地

小牧市のまちづくりの方向性を定める「まちづくり推進計画第3次基本計画」を現在策定しています

まちのコンセプト

ずっと「わたしのまち」こまき

「ずっと」には、生まれ育ったまちという意味に加え、住み続けたいまちや、離れてもふるさととして思い続けられるまち、親しみを感じられる場所という思いを込めています。「わたしのまち」には、小牧市とのつながりや絆、愛着と、まちの未来や課題を自分のこととして見つめるまなざしが表現されています。

５つの共通視点

多様化する価値観と地域課題に的確に対応するため、すべての分野に共通する５つの視点を設定します

（1）人口減少・少子高齢化への対応
限られた資源を活かし暮らし続けられるまちへ

（2）ウェルビーイングの向上
生活の質と地域の活力の向上を実感できるまちへ

（3）選ばれるまち小牧の実現
働き・育て・住み続けたいと思えるまちへ

（4）トランスフォーメーションの推進
AX・DXとイノベーションで施策全般を変革

（5）脱炭素社会への対応
省エネ・再エネ・5Rで2050年脱炭素をめざす

ウェルビーイング（Well-being）とは何か

市民一人ひとりが感じる「暮らしの質」を大切に

ことばの意味

身体も心も健康で、人とのつながりや安心感があり、自分らしく暮らせている状態のことです

モノの豊かさに加え、健康・つながり・安心感・自己実現といった暮らしの質が重視されています

行政に求められること

市民の生活満足度や幸福度を高める観点から、誰もが自分らしく暮らせる環境づくりを進めることが求められています

ウェルビーイングを支える３つの側面

どれか一つが欠けても実感しにくいため、３つをあわせて高めていくことが大切です

身体的｜からだが健やかである
病気や不調が少なく、運動・食事・休養を無理なく続けられる

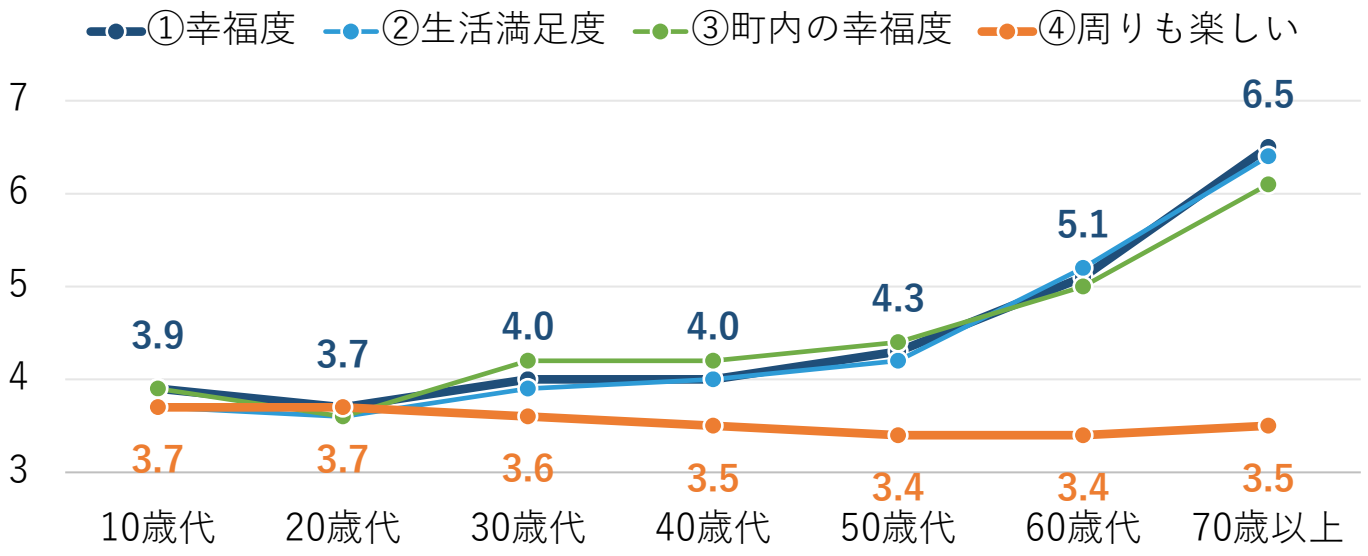
精神的｜こころが満たされている
不安が少なく、やりがいや充実感を持って毎日を過ごせる

社会的｜人や地域とつながっている
家族・友人・職場・地域とのつながりがあり、困ったときに頼れる相手がいる

市民意向調査から見えるウェルビーイングの状況

現役世代の幸福度を見る

年代別の幸福度
（10～50歳代は横ばい、60歳代以上で上昇）



	各種幸福度	平均点
①	現在、あなたはどの程度幸せですか（幸福度）	**4.7点**
②	現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。（生活満足度）	**4.6点**
③	あなたの町内の人々は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。（町内の幸福度）	**4.6点**
④	自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思いますか。（周りも楽しい）	**3.5点**

※①～③は0～10点で回答、
④「周りも楽しい」のみ最高で5点

10～20歳代の幸福度・生活満足度・町内の幸福度はいずれも4点を下回る

60歳以上歳代の幸福度・生活満足度・町内の幸福度では平均を上回る

若い世代・現役世代のウェルビーイングを高める視点が必要

現役世代をどう捉えるか

現役世代を年齢ではなく、「暮らしの中心」で捉える

働くことが中心にある人

地域で働きながら、経済活動や地域の活力を支えている人

子育て・家庭生活が中心にある人

家庭を築き、子どもの成長や家族の生活を支えている人

学び直しや新たな挑戦が中心にある人

就職・転職・起業・リスキリングなどを通じて、新たな活躍を目指している人

市も一事業者として、現役世代を雇用する立場

市役所自身の人材育成・確保と働き方の見直しに取り組み、現役世代に選ばれる職場を目指す

市の取組～現役世代のウェルビーイング～

①～⑤の視点で紹介

① 住み続けたい、子育てしやすいまちをつくる　→ P.8

保育料・給食費・医療費の負担軽減、定住促進奨励金、地域の子育て支援

② 企業の人材確保を支える　→ P.9

人材確保支援補助金（求人サイト登録・合同企業説明会出展を1/2補助）、企業向け説明会

③ 働きたい人を支える　→ P.9

就労支援センター（求人情報提供・職業相談）、労働相談、若年者等就職相談

④ 市の人材育成と確保　→ P.10

人材育成・確保基本方針、大学等での就職イベント出展、就業体験・インターンシップ、試験方法の工夫

⑤ 働き方の見直し　→ P.11

働き方の見直しと「こまきカジュアル」

市の取組～住み続けたい・子育てしやすいまちへ～

住まい・子育て・地域の支えを組み合わせ、小牧に住み続ける選択を後押しする

小牧に住まいを構える後押し

定住促進奨励金（三世代同居、三世代近居、市内就業者新生活応援の３タイプ）で定住を後押し、結婚新生活支援補助金により新生活を応援

子育ての経済的負担を軽くする

０～２歳児の保育料無償化、、第２・３子以降の学校給食費無償化で負担軽減、 18歳年度末までの入院・通院医療費無料化

子育てを地域で支える

子育て世代包括支援センターや児童館など、親子が集い、相談できる身近な居場所を提供

学びと放課後を支える

こまきこども未来館や児童クラブなど、こどもが安心して遊べる環境を提供することで、共働き世帯も安心して働き続けられる環境を整える

市の取組～企業の人材確保と働きたい人を支える～

人材確保・就労支援の主なメニュー

取組	内容	現役世代とのつながり
1 人材確保支援補助金	市内中小企業の求人マッチングサイト登録費（1/2・上限15万円）、合同企業説明会の出展料（1/2・上限20万円）を補助	地元企業の採用力を高め、市内で働く選択肢を増やす
2 企業向け人材確保等説明会	補助金の説明に加え、求人マッチングサイトの活用や若者採用のポイントなどを解説（令和8年11月開催予定・定員60名・無料）	中小企業の採用ノウハウを底上げし、若者との接点をつくる
3 小牧市就労支援センター	市役所東庁舎1階に開設。求人検索機による情報提供と、相談員による職業相談・紹介を実施	転職・再就職・子育て後の再就業を身近な場所で支える
4 労働相談・若年者等就職相談	愛知県の労働相談員による職場の困りごと相談（毎月第1木曜・予約制）、若年者向けの就職相談（毎月第３金曜・予約制）	働き続けられる環境づくりと、若者の就職の不安を和らげる
5 雇用創出等につながる企業の成長投資等支援	企業立地促進、再投資促進、デジタル化・省エネ設備導入など、市内企業の成長や事業拡大を支援	市内での雇用創出や働く場の確保につなげ、若者や子育て世代が市内で働き続けられる環境をつくる

市の取組～人材育成・確保～

めざす職員像は「考え」「発見し」「挑戦する」職員

人事マネジメント
人事評価を指導育成や昇任・処遇に活用。適材適所の配置、女性活躍推進、定年引上げへの対応

研修・能力開発
OFF-JT・OJT・自己啓発の体系で約40の研修メニュー。DXや若手指導力、育児・介護理解の研修も新設

人材確保
公務員と小牧市の魅力をPR。試験実施方法の工夫、就業体験・インターンシップ、大学等の就職イベント出展

職場環境の改善
ワークライフバランス、健康経営、メンタルヘルス、ハラスメント防止に取り組み、働きやすい職場をつくる

市の取組～働き方の変化と「こまきカジュアル」～

市役所自身が働き方を変え、現役世代に選ばれる職場をめざす

デジタルで仕事を変える

庁内チャットツールでのやりとり、窓口業務のオンライン化・電子決裁、AIの活用による業務効率化、市民の利便性向上を図る

支え合って働く

コミュニケーションを促すフリーアドレス、繁忙部署を他部署が支える職員助け合い（応援）制度で業務の偏りを減らす

働く時間と業務の進め方を見直す

窓口対応と内部事務に充てる時間を整理するため、開庁時間を午前9時から午後4時に見直し。あわせて、午後7時10分にパソコン画面を自動ロック、時差出勤・時差勤務を実施

こまきカジュアル（令和8年7月～）

服装の慣例を見直した新基準。清潔感と信頼感、TPO、働きやすさと自分らしさの3点を職員自らが判断

その他取組

中日ドラゴンズファーム（２軍）本拠地誘致の取組

一次選定を通過。市民・企業・団体・行政が一体となって二次提案へ

応募28自治体のうち22自治体が通過し、小牧市も二次提案の対象に選ばれました

⚾ 候補地は小牧市総合運動場（市民球場含む）、敷地は約9万2千平方メートル

今後の予定

二次提案の提出：2026年10月30日
優先交渉権者の決定：2027年5月頃
ファーム拠点の移転：2030年代前半（球団公表）

市民・企業・団体とともに進める機運醸成

市内外から応援の輪が広がっています

応援動画　40本
6月10日～30日に市公式LINEで募集し、SNS等で発信

応援署名　11,977人（9/24時点）
10月29日まで、市内外を問わず募集中

賛同書　144団体（9/24時点）
市にゆかりのある企業・団体が賛同を表明

庁内・まちなかからの発信
PRポスターやのぼり旗の掲示、毎週金曜の「ドラゴンズデー」、応援メッセージコーナー